WASEDA ALUMNI
SINCE 1885

早稲田大学
立川稲門会会報

2007年10月14日
第12号
発行　立川稲門会
事務局　立川市曙町2-32-3
サンパレス立川302
鴛海会計事務所内
電　話　042-527-6191
FAX　042-524-9570

稲門会活動は「ギブ」に徹し
親睦と母校支援も再確認

鴛海量良会長

一八八二年（明治十五年）、大隈重信が創立した東京専門学校を前身とする早稲田大学は、この十月で建学一二五周年を迎えた。その間母校は、学部・大学院のほか研究機関、教育機関などの充実をはかり、我が国有数の総合大学となった。

一二五周年をきっかけに学の独立は「独創的な先端研究に挑戦」へ、「学問の活用」は「全学の生涯学習機関化」へ、「模範国民の造就」は「地球市民の育成」へと三大教旨は衣替えし、母校は「第二の建学」に向けて新たなスタートを切った。

この間、私たち校友は大学とのかかわりにどのような足跡を残したであろうか。周年事業という節目ごとに募金という形で、大なり小なりの貢献はしてきた。一八八五年（明治十八年）、開学三年目に組織された校友会は①会員相互の親睦＝校友組織の充実②会員と大学との連携を強化＝早稲田大学の事業を援助すること、この二つを目的として今日に至っている。

校友会の傘下母体として四〇〇におよぶ地区稲門会や校友会（以下、稲門会）規約は、おおむねこの二つを基本としている。この目的は稲門会という組織の基本理念である。立川稲門会も今年で設立三四年目だが、二〇〇四年に規約を改正した。会の目的がこの二つにあることを明確にし、地域社会への貢献も謳いつつ、政治と宗教には中立である旨を明記した。

地区稲門会の会員は、会社員、公務員、主婦、退職者、会社経営者など幅広く、出自も生活の環境も背景も異なる人たちの集団である。しかも、会費の支払いは任意で、その人たちに一貫して共通するものが母校早稲田を軸としているからこそ、この二つの目的や理念が一層意味を持つのである。

言い換えれば稲門会は、経済団体でも、ロータリークラブやライオンズクラブでも、あるいは商工会議所でも青年会議所でもない。それらはおおむね経済人の集まりであり、会費も多額で強制的である。この違いが重要なのだが、問題は、言葉として分かったつもりでも、考え方の出発点や行動に移るときに、ついそのような団体に所属していると錯覚しがちであるということだ。

いまの立川稲門会がそうだ、というのではない。会員が常に意識して会を運営していかないと、知らず知らずのうちにその理念や目的がないがしろにされ、結果として会の活性化を阻害することになる。つまり、稲門会という組織は優れてボランティア団体であり、ギブ・アンド・テイクの世界ではない。会の運営費用はともかく、基本的にあるのはギブのみなのである。

常に古くて新しい問題だが、立川稲門会の課題はこのような理念を踏まえた活性化にある。活性化を簡潔に言えば、総会への参加者を出来るだけ増やすことである。今後は広報委員会の協力を得て、役員会で議論し、実現して行きたい。

ところで一二五周年記念事業募金は、立川稲門会への割当額千九百七十五万円に対し二千九百七十三万円（九月十八日現在）で、達成率一五一％である。この達成率は福生稲門会の二五五％、宮崎県支部の一八六％に次いで全国三位である。これに、大学当局の依頼で来年三月末に立川稲門会扱いにカウントされる故小澤孝保氏の遺贈一億一千四百万円（昨年の会報第一一号で既報）を加えると七三〇％になり、間違いなく全国断トツの目標達成率となる。

このほか、毎年の稲門祭のチケット販売や、学生の自主企画である早稲田祭への協賛広告でも、立川稲門会ほど実績を上げ、協力的な会はないようである。

立川市内の在住校友数は九九五人で、東京三多摩支部二十三稲門会の中で十五番目である。この規模で、数ある稲門会の中で多くの分野で実績をあげてきた要因は何か。ひとえにそれは、立川稲門会の会員が稲門会の二つの基本理念をよく理解し、言葉ではなく自ら体現してきたからである。

ここで一二五周年を機に、校友のあり方と大学の取り組み姿勢を考えてみたい。

現在、母校の生存校友数は五十三万八千人（九月三日現在）である。比較時点は若干前後するが、このうち七月末現在の一二五周年記念事業募金申込者数は七万六百八十三人で一三・一％である。しかし、一二五周年記念募金は二〇〇〇年から始まっているのに、応募率はたった一三・一％である。

私学早稲田の校友が母校になしうるのはギブの行為しかありえないと思うが、早稲田時代に受けた講義のお粗末さや職員の横柄な態度などいやな思い出ばかりが残って、母校に対する愛着を持てないという校友も多いようだ。母校の教職員が、愛情を持って学生に接し、母校愛を育む姿勢を常に持ち続けていたら、もっと高い募金申込率が達成できたはずである。

早稲田が欧米の一流私学に比肩するほどの域に達するのは、教育や研究面だけでなく、母校支援に誇りを持つ卒業生を多数輩出したときである。第二の建学に向けて母校がより躍進しようとするならば、この点を最重要項目として、自ら改革に取り組むべきである。

来年二〇〇八年（平成二十年）の稲門祭の主幹は持ち回りで東京三多摩支部に決まり、その実行委員長に当会の志村順子副会長が内定した。今年度の稲門祭副委員長として多忙を極めながら、すでに来年に向けて積極的に活動を進めている。

一方、東京三多摩支部の二〇〇八年度主幹稲門会も、八月二十五日の会長会で立川が支部長、国立が副支部長と決まった。主幹となるのは一九九七年以来一一年ぶりである。

したがって、二〇〇八年度の立川稲門会は、稲門祭と東京三多摩支部の運営の中核を担うことになる。会員の皆さんの絶大なるご支援とご協力をお願いしたい。

（S37政経）

母校創立一二五周年記念協賛事業

「0(ゼロ)からの風」共催上映

中部地区 飲酒運転撲滅で結集

今年、創立一二五周年を迎えた母校に協賛する立川稲門会の記念イベントは、飲酒運転撲滅のキャンペーン映画「0（ゼロ）からの風」の共催上映だった。「0（ゼロ）からの風・立川」（菅原直志代表）との共催で五月一三日(日)に立川市女性総合センター・アイムホールで上映、これは三月二三日の臨時役員会で了承された。

これを受けて、三月二九日に同団体と立川稲門会が第一回の合同会議を開いて上映実行委員会を発足させ、委員長に鴛海量良・立川稲門会会長を選出した。この会には、鴛海会長と木村辰幸、小林章子、波多野進、佐竹茂市郎、錦織文良の実行委員が参加した。このほかの佐々木等、中村信、鈴木一廣の各委員は都合で欠席した。

立川稲門会は、この企画を東京三多摩支部中部ブロックの八組織（三鷹、武蔵野、国立、小金井、国分寺、青梅、昭島、立川）の統一開催としてはどうかとの提案をし、四月一〇日の中部ブロック会長会で採用決定となった。

「0（ゼロ）からの風」（塩屋俊監督作品）は、早稲田大学も一二五周年記念事業として後援している。三月二二日に早稲田大学国際会議場（井深大記念ホール）で完成披露試写会があり、鴛海会長と小林、波多野、錦織の四人が鑑賞した。この映画は、五月一二日から早稲田松竹で皮切り上映し、向こう二年間は自主上映と映画館での上映の二本立てを続ける。立川上映は、全国稲門会の先駆けとなった。早稲田大学に入学して一週間後に、無謀運転の車に息子の零（れい）君（当時一九歳）を奪われ、一人ぼっちになった母の深い悲しみと絶望、そして闘いに立ち上がるストーリーは、会場の強い感動を呼んだ。

3月24日の卒業式前夜祭での鈴木共子さん＝リーガロイヤルホテル

「0（ゼロ）からの風」は、神奈川県に住む鈴木共子さん（57）の実話をもとにしている。七年前の春、一人息子を即死させた車は無車検・無保険で、加害者の男は免許失効中。泥酔状態で三度目の事故だったのに、業務上過失致死傷罪として刑期は当時の最高である五年にすぎなかった。

殺人に等しい息子の死の償いがたったの五年とは…。絶望と怒りにさいなまれながら、刑の軽さを告発するために鈴木さんは立ち上がる。同じ境遇の仲間に呼びかけて二年間街頭に立ち、刑法改正に取り組んだ。三七万余の署名を集めた努力が実を結び、二年がかりで危険運転致死傷罪（最高刑期二〇年、併合加重で最高三〇年）を勝ち取った。一般市民による初めての法改正実現だった。

鈴木さんはさらに自らに問い続ける。これで息子は報われたのだろうか、と。そして「息子とともに学ぶ」ことを決め、早稲田大学入学を目指す。署名運動の傍ら、息子の机で、息子が使っていた教科書、参考書、ノートをたどりながら受験勉強し、三年目に第二文学部に合格し宿願を果たす。それは、「息子の人生をかわりに生きるのだ」という決意表明でもあった。鈴木さんの一部始終は、女優の田中好子さんが熱演した。

鈴木さんは三月二五日、卒業した。そしてその前日にリーガロイヤルホテル東京で行われた卒業式前夜祭で、校友会の白井克彦会長から「稲魂賞」を授与された。学術、芸術、ボランティア、スポーツ、地域活動などで成果をあげた卒業生を表彰する制度だ。今年は二一人、五部が受けた。鈴木共子さんの卒業式の模様は、それまでの活動の軌跡と合わせ、三月二六日のNHK「ニュースウォッチ」や二九日のテレビ朝日「スーパーモーニング」などが紹介した。

五月一三日の上映会は、午後零時二〇分と二時四〇分の二回で、上映時間は一一〇分だ。入場チケットは一枚千円で、会場の収容人員は一九六人。二回の上映で四百枚のうち、半分の二百枚は稲門会関係で販売した。（広報委員会）

＝稲門会通信NO34から

中部八稲門会共同で

会長会で上映決定

立川稲門会が、母校の創立一二五周年記念協賛事業として企画立案した、飲酒運転撲滅キャンペーン映画「0(ゼロ)からの風」上映が、中部ブロックの共同企画に決まった。

四月一〇日、立川市で開いた中部八稲門会の会長会で、鴛海量良・立川会長が、立川稲門会通信三四号など各種資料をもとに詳細に趣旨を説明、試写会の印象や運営方法などを解説した。各会長からの質問と議論を経て、中部ブロック（武蔵野、三鷹、小金井、国分寺、国立、立川、昭島、青梅）が共同で取り組むことを確認した。

立川稲門会はすでに、九人の実行委員が共催の「0（ゼロ）からの風　立川」（菅原直志代表）と券の発売や運営を検討してきた。約四百枚の入場券の半数以上は立川稲門会がほぼ販売した。

上映会は五月一三日(日)、立川市女性総合センター・アイムホールで午後零時二〇分と二時四〇分の二回開いた。一回の収容人員は一九六人だ。

この映画は、大学が一二五周年記念事業として支援しており、立川上映は全国の皮切りとなった。五月一二日、早稲田松竹で映画館上映がスタートし、自主上映と並行して、向こう二年間、全国展開する。立川方式には、横浜校友会（六月九日、関内・教育文化センター）が賛同、東京三多摩支部の南部、北部稲門会も呼応した。

【中部ブロック会長会参加者】轟常弥・武蔵野会長、谷田成雄・国分寺会長、福田　武・昭島副会長、大倉十彌也・青梅幹事長、長沼昭夫・国立会長、鴛海量良・立川会長、志村順子・立川副会長、錦織文良・立川副会長、亀井裕子・立川副幹事長。

【欠席、賛同表明】小杉山禮子・小金井会長

【欠席、出欠無回答】吉野良助・三鷹会長。（広報委員会）

＝稲門会通信NO35から

立川総力で上映成功

封切りも好評、全国に拡大

立川稲門会が、母校の創立一二五周年記念事業として企画した飲酒運転撲滅キャンペーン映画「0（ゼロ）からの風」上映会を、五月一三日午後、立川市女性総合センター・アイムホールで開き、成功裡に終えた。「0（ゼロ）からの風・立川」（菅原直志代表）との共催で、東京三多摩支部中部ブロックの八稲門会が支援した。自主上映としては全国に先がけた封切りで、映画館上映は前日の一二日から早稲田松竹で始まっており、向こう二年間、映画館と自主上映の二本立てキャンペーンを全国展開する。全国の稲門会に先行して記念事業に据えた立川のこの取り組みに続いて、隣接の南部ブロック八稲門会、北部ブロック稲門会のほか、横浜校友会、埼玉県の稲門会などで企画が進んでおり、全国に波及する動きとなってきた。

上映前には、鴛海量良・実行委員長が上映の趣旨と早稲田大学創立一二五周年について説明した。続いて鈴木さんが、息子の命を奪った殺人運転の理不尽さと、母一人、子一人の幸せな生活を破壊された悲しみと怒りを語り、飲酒運転の撲滅を強く訴えた。また、土屋哲男・エグゼクティブプロデューサーは、制作意図や今後の展開などを語った。

会場は、上映開始からいきなり息詰まる雰囲気に包まれ、ストーリーの展開とともに目頭を押さえる光景が見られた。会場の反応は「感動した。生きていることがどんなに幸せか、しみじみわかった」「飲酒運転がいかに危険か、身近な大問題だと初めて気づいた」「殺人行為を絶対に許してはならない」などだった。

子供たちの集中も予想以上だった。開演前にはしゃいでいた小一と小五の男児兄弟は、次第にスクリーンに引きつけられて静かになり、身を乗り出し凝視し続けた。小学五年の女児は「感動してジンときた。とてもいい映画だと思います」と語った。

チケットは前売り三一六枚、当日売り五〇枚で、入場者は二回の上映（定員計三九二人）で二八九人。二年間有効なので、後日、各地の映画館や他地域の自主上映会に入場する人もいるとみられる。

ステージで挨拶する右から鈴木共子さん、土屋哲男さん、鴛海量良実行委員長

アンケートには八九人（二九・一％）が答えた。この種のものではきわめて高率で、その多くが感動のメッセージだった。

実行委員会は共催双方の約二〇人で構成。立川は鴛海会長以下、小林章子、木村辰幸、佐々木等、佐竹茂市郎、鈴木一廣、中村信、錦織文良、波多野進の九人で、当日は柴香里、廣瀬俊夫の二会員も参加した。現役学生の支援も強力で、運営に一役買った。（広報委員会）＝稲門会通信NO37から

短期取り組み 大きな成果に

実行委が総括

母校創立一二五周年記念協賛イベントとして、立川稲門会が五月一三日に企画した「0（ゼロ）からの風」上映会（中部ブロック稲門会支援）の取り組み結果が二二日までまとまった。

注目のチケット販売（一枚千円）は、オール稲門で三一七枚、うち立川稲門会は当日売り六一枚を含めて二八八枚、共催の「0（ゼロ）からの風　立川」（菅原直志代表）が一二〇枚、新聞・チラシによる前売りが二九枚だった。上映二回の座席数は計三九二で、四三枚の売り越し勘定だが、これは二年間有効の映画館上映を希望した人たち向けである。

売上総額四三七、〇〇〇円の九〇％、三九三、三〇〇円を映画製作会社の株式会社「ウィル・ドウ」に支払い、残り一〇％四三、七〇〇円は生命のメッセージ展実行委員会に贈呈した。

この企画は実質一カ月余の短期決戦だったが、鴛海量良・実行委員長と実行委員九人の集中活動で乗り切り、成果を確認できた。それを支えたのが役員会の結束である。立川稲門会としては初の大がかりな取り組みだったが、チケット販売と当日の会場運営を含めて「企画は成功」（鴛海会長）の評価ができるだろう。ただ、一〇〇人を超える会員に支援呼びかけたのに対し、応じたのは四人八枚で今後の課題（鴛海会長）だ。

一方、この映画に対する社会の反応は、上映後さらに盛り上がった。マスコミ各社がさまざまにリポートしたのを始め、市民の共感の声も相次いだ。社会的に重いテーマに、稲門会として参画した成果は大きかったといえる。

七年前の春に、一九歳の一人息子零君を無謀運転に奪われた鈴木共子さん（生命のメッセージ展代表）の運動にも、今後、一段と弾みがつきそうだ。

自主上映会はこのあと、東京三多摩支部の北部ブロックが九月一日、南部ブロックが九月八日、そのほか横浜校友会などが続く予定だ。この企画で全国の先頭をつとめた立川稲門会も、成功のノウハウを全公開して、各地の支部の企画に協力していきたい。（広報委員会）＝稲門会通信NO38から

教育委員17年の総決算

鋭く温かい眼差し

教育万華鏡　志村順子著

志村順子さん（S40独文）が昨年末、新著「教育万華鏡」を出版した。著者は一九八七年から二〇〇四年まで一七年余り立川市教育委員を務め、特に一九九七年からの七年間は委員長として学校教育や社会教育に精力的に取り組んできた。その長い体験を、現場の実態と客観・公正に対比させながらまとめた本である。その視野は学校、行政、家庭、地域社会の全般をとらえており、誤解を恐れず正攻法で論じきった力作である。各分野すべての関係者に読んでもらいたい好著といえる。

内容は、学校の成り立ちと教育行政、生涯学習、週五日制授業、学級編成、教科書選定、給食などについての感想・指摘・提言の二六章に、立川の風物を題材にしたエッセイ八章を随所に絡ませた巧みな構成だ。

教育委員を退任して二年余、データは今日的なものと歴年に及ぶものをしっかりと組み合わせてあり、歯に衣着せぬ鋭い物言いも小気味よく、読みごたえがある。全編が現行教育に対する警句と具体的な提案、行動計画で貫かれている。

教育委員としての著者の取り組み姿勢は明快である。子供たちが自分で生き抜く力を身につけるにはどうしたらいいか、学校教育の要であるいい授業づくりの環境をどう整備するか、学校と先生の質の向上には何が必須かなど、教育委員会としてのスタンスをしっかり設定したうえで主張を展開している。

家庭と社会の教育に対するかかわりの低下、その分、学校と先生に加わる圧力、それに抗しきれずに疲弊する教師たち。現場にはさまざまな配慮を施しながらも、著者の先生に対する注文の数々は重く果てしない感がある。親と大人社会には特に容赦なく手厳しい。そこから学校に送り込まれる子供たちにも、正面からきちんと意見する。安易な妥協はしない。すべて近未来の子供たちの健やかな成長を見据えたものだ。

学校に丸投げしがちな親や大人たちにはこう言い切る。「学校に求められる福祉的要素は増える一方だ。でも、学校は託児所ではない」「食事、生活習慣の指導、お金の与え方などの基本は親の責任分野だ。これさえできていれば、学校は本来の仕事に打ち込めるのだ」。

首相直属の教育再生会議は一月一四日、教育委員会を徹底改組する提言をまとめた。人事権を都道府県教委から市町村教委に委譲する一方で、小規模市町村教委の統廃合を促したり、教委に対する外部評価制度の導入を図る。いずれも、いじめ問題以後、教育委員会の非能率運営、隠蔽体質、委員の名誉職化などを指摘する声が大きくなっていた。この新事態を著者はどう見るか。反論を聞きたいものである。

出版紹介にはエッセイ集とあるが、これは硬派の現代教育論である。その中には「教育委員会とは」「教育委員とは」など、へえーという新知識や、学校の諸行事を通して見たさまざまな学園風景、人間模様を詳細にちりばめてある。そこから見えるのは、著者の情熱と責任感、そして心やさしさであり、この本の基調が教育現場への応援メッセージであることがわかる。

「自信を持って、そして潔く」が志村さんのモットーであり、心意気である。

（広報委員会　錦織　文良）

＝稲門会通信NO31から

会員の著書

五日制の理念生かせず

語り、考え、基礎学ぶ教育を

志村　順子

「教育万華鏡」を出版した時は、いじめ対応の不手際が目立ち、教育委員会が槍玉にあがっている頃だった。直後に、教育再生委員会が提言を出している。あれから年金問題、政治と金の論議、そして首相交代と続き、人々の関心は風のように流れている。

再生会議の提言は「社会総がかりで教育再生」といっているが、いま「日本再生」と言ってもいいくらいの状況ではないだろうか。

「人事権を極力、市町村に委譲する」ことは少しずつ市町村が責任をもつ時代になることで、大事なことである。もっと裁量をといいながら、裁量権が国や都にあることで責任を逃れてきたことも事実である。しかし、市町村の財政に差があれば、人事にも差が出てくるのは当然のことなのだ。

「外部評価制度」もすでにさまざまな形で存在している。どうも評価というのは屋上屋を重ねることが多いように思う。それが一律というところも問題だ。

学習指導要領のように、国の教育の根幹にかかわることは、教育の機会均等や教育水準の確保の上で一律でなければならない。根幹の部分は変わらなくても、身近な日々の教育活動には地域の実情がある。東京と地方の環境は違う。その学習指導要領の改訂の素案が示された。その一つに、総合学習を減らし算数・国語の時間を増やすというのがある。総合的な学習を、現場ではあんなに模索しながら立ち上げてきたのに、たった数年で針路を見失うことには「やっぱり」という思いがある。建前だけでは進まないもろさがある。

学校週五日制になり、子どもの時間配分は学校と家庭とで半々近くになった。ボランティアや体を動かす学校外体験などでも「生きる力」を身につけてもらいたいという、壮大な理念が込められた五日制なのである。それが、家庭の教育力は発揮されず、ただの休みになってしまった。学校が負わされる使命の大きさを改めて思う。

五日制でわかったことは、やはり国や地方がしっかりと教育施策を立案していくことである。ただし自治体や地域の裁量により要、不要を見極めた施策である。

教育委員会制度についても、長い間議論されている。形骸化している、市長部局に移すべきだ、学校だけに特化すべきだ、などと。五人の教育委員もある意味で教育行政の外部評価的な役割である。常に中立公正を心がけてきた。民意の代表者といわれたが、民意などとてもひとつに括れるものではない。教育はいつも、価値観と歴史観の微妙なバランスのなかにある。いつも模索の連続なのだ。教育という言葉を使っているが、生き方そのものだからである。だから、社会情勢を踏まえた見直しは耐えず必要だが、人間の生き方としての心棒は、でんと杭を打っておかなければならないと思っている。過疎、過密に伴う教育をめぐる環境で、地域の教育委員会の実態は当然に変わってくる。

長いことかけて成熟した縦社会の教育行政には既得権と信頼という異質なものの駆け引きがある。そこからなんとか工夫している独自の学級編成や予算配分など、風穴を開ける試みがこれからじわじわと浸透してくるだろう。

大気汚染や地球温暖化という世界規模で環境を考えなければならない時代に、これからの子どもには、国際社会で堂々と物を言う人間になってほしい。大きな目標を考えたら、自由をはき違えない自由さを身につけてもらいたい。もっと言葉を使い、考え、徹底して基礎基本を学ぶことが教育の不易だと考える。

（S40一独文）

会員の著書　会員の著書

「俳句界に一石」の気概

句集 蟷螂の斧　中村 信

稲門同人と猿若句会に集う

さる七月二十一日、句集『蟷螂の斧』を上梓しました。三十数年前に、『詩集』を出したことはあるが初句集です。こんな半端な日が発行日であるかというと、その日が私の誕生日で、心ならずも七十歳になってしまった日で、いうならば古稀を記念した形にしたからです。

俳句は高校時代から（ちなみに今では洒落にもならなくなりましたが、呆信の俳号をすでに使い）始めていました。大学では早稲田詩人会に入部しました。教室にいるより部室か雀荘で時を過ごしていることが多かったため、実は自然なりゆきで爾来約三十年は俳句と無縁でした。俳句に復縁したのは、友人らと連句を始めてからです。もともと俳句とは、連句の発句が独立したものですから因縁は浅からぬものがあるわけです。

連句は「友多加座」という名の座をつくり、文音で回して現在四十二巻めを巻いています。さらに「猿若座」もつくって二巻ほど巻きました。猿若座とは歌舞伎の江戸三座のひとつで、のちの中村座（現在も十八代・中村勘三郎に引き継がれています）の旧名です。その時は中村座では不遜だと考え旧名を借用したわけです。

八年前、会名未定のまま俳句の勉強会を発足しました。会名は連句・猿若座の関連から、結局「猿若句会」に落ち着いてしまい会亭をつとめています。会員には校友会関係者も多く、中村克久（休会後、復会）、佐々木等、佐竹茂市郎、原健一（入会順）さんが立川稲門会々員です。また高橋均（中村克久さんの友人で大宮稲門会々長）さんも有力な会員です。岡田誠太郎（三鷹市）さんも時々投句する会員、佐藤維久江（休会中、中野区）、香取忠治（会友、狛江市）、豊田豊（故人、旧与野市）さんらも早稲田関係者です。

今年は四度目（一泊は初めて）の吟行句会も甲府・武田神社（写真）で行いました。

話を元に戻します。

句集『蟷螂の斧』には二つの特色があります。一つは横書きの句集で、句集では殆ど例をみないでしょう。もう一つは〈新年、春、夏、秋、冬〉を通季／初季／仲季／晩季と分け、時候・天象・地理・生活・行事・動物・植物の各一句だけを選んだこと、連句における分類の〈花、月、恋、雑〉からも選句したことです。

冒頭に「蟷螂の斧振り上げて虚仮威し」を載せましたが、句集命名由来の代表句と思われがちですが、違います。慣用句としての蟷螂の斧＝「自分の微弱な力量をかえりみずに強敵に反抗すること。はかない抵抗のたとえ」（広辞苑）が先にありました。作句する以上、現在の俳句界に何か一石を投じたい、との気があっての喩えです。いま、それが出来たか否かは読者の批評に委ねるしかありません。作句時点で、句は作句者の手を離れていると考えています。したがって、代表句はと聞かれ時も、何も答えないことにしています。左記に句集のなかから何句か引用しますが、すべて「酒」関連句で、代表句ではありません。

［初空や凧もほろ酔いぎみなるか］（新年）　［酔いどれて街は朝なり萬愚節］（仲春）　［昼酒で酔うております吾亦紅］（晩秋）

［花の酒のどにもおわす仏かな］（花）　［酔ふとらむ月と遊んでをるだけじゃ］（月）

俳句または連句にご興味をお持ちの方は私の電話(042-523-3331)または［http://www.5.ocn.ne.jp/~d-gerr/index.html］へ。（S38一文東哲）

武力闘争にかける青春

早稲田細胞一九五二年　鈴木茂夫

日本共産党の武力闘争に、命運をかけた主人公・第一文学部露文科の学生棚田耕平の青春の彷徨。

日本共産党は、一九五一年秋から約十カ月間、無謀な武力革命を展開した。

耕平は、暴力革命と社会主義文学にも疑念を抱きつつ、党の非合法機関紙「平和と独立」の配布を担当するかたわら、劇団自由舞台の俳優として稽古を続けている。

恋人・智子との語らいが、耕平の慰めだった。

一九五二年四月、耕平は軍事組織中核自衛隊員として小河内村に派遣され、駐在所の襲撃に参加。警官隊の追跡を逃れ、夜を徹して早稲田に戻った。

劇団の公演も終え、夏休み。秋深まる頃、耕平は、虫垂炎、腸閉塞を併発、死線をさまよって命を取り止める。耕平はその体験の中で、革命幻想の呪縛から解かれ、ようやく素直に自分を見つめていた。（S29一文露）

生活風景を巧みに描く

炬燵 など二編　井川芳朶

井川芳朶さん（S35・教）が家族の愛と絆を描いた短編二編を上梓した。

表題作「炬燵」は、肺炎をきっかけに不登校になった中学生が苦悶し、周囲のひとびとの温かさに触れて成長していく過程を描く。彼は、友の一言で学年をやり直す勇気を得る。

終始、同じ筆致で坦々と綴る。生活風景の描き方がリアルで巧みだ。

「階段を踏み外せば」は、夫の病死や一人娘との不和を乗り越えて、家族のために奔走する母の孤独を描いた。

二作品とも、一九七九年から八年間、民生児童委員を委託されたときにかかわった事例を基にしたフィクションである。二〇〇八年二月二〇日まで「炬燵」のホームページで「日記」欄を逐次更新している。

ホームページは「新風舎」を検索し「クリエーターズワールド」をクリックすると、「作家一覧」の「名前で探す」から「い」をクリック、「井川　芳朶」「炬燵」が開く。

九月二六日付の朝刊で新風舎の広告が載り、その中で「炬燵」が紹介されていた。

世界の民族衣装の事典

伊藤　暢子・共著

「衣服で世界の文化を理解する！　装いの世界遺産の数々」。世界各国の民族衣装六〇余の国や地域を扱う日本最初の本格的事典である。収録した写真や図版は、資料として貴重であると同時に、色鮮やかで眺めるだけでもたのしい。小学生、中学生にも薦めたい。世界にはいろいろな顔の人がいる、着る物もいろいろあるのだと、人間の多様性に触れることができるだろう。

私はアフガニスタン、パキスタンを執筆した。購入希望者は著者割引二〇％。『世界の民族衣装の事典』（東京堂出版）は定価二一〇〇〇円。

（伊藤暢子　S50文研修）

娘の遺作30年ぶり甦る

国立音大同級生の指揮で合唱

井川芳朶さん夫妻 交通死の無念超える

ステージで挨拶する左から名木田恵子さん、井川芳朶さん、南高まりさん＝いずみホール

愛娘の遺作、女声三部合唱「夕焼けのはなしをしよう」を聴き終えて、井川正三郎・芳朶（S36教秀四曲のうちのこの合唱曲は、一九七七年一二月九日、杉並公会堂で開かれた学校音楽祭で、愛子さんの指揮でクラスの仲間と歌って以来だ。マーガレットの練習で口ずさんだら、いきさつを知ったメンバーが「いい曲だ。ぜひ歌ってみたい」とこぞって推薦した。構想から一年半、第二回発表会で南高さんの思いが結実した。

明るく伸びやかな曲だ。書店で読んでいて感動した名木田恵子さん（詩人、児童文学作家）の詩に自分のイメージを重ね合わせた。その名木田さんも公演に駆けつけ詩について「私は二一歳で母を失い天涯孤独になった。強く生きなければ、と心に期した。作詩の舞台は佐渡だった」と述懐した。

公演後、南高さんが三〇年におよぶ経緯を説明し、会場から感動の拍手を浴びた。立川稲門会からは鷲海量良会長以下、古川剛久夫妻、原健一、廣瀬俊夫、佐竹茂市郎、錦織文良、宮崎京子の八人が聴き入った。

マーガレット歌の会は、二〇〇二年四月、童謡を楽しむ会としてスタートした。月二回、いずみホールで練習をする。会員は、国分寺、府中、あきる野、小平、東村山、昭島、八王子、杉並区など広範に渡る。

◇

井川芳朶さんの話 感無量です。一九七七年の学校音楽祭では中学生の声一色でしたのに、今日は大人の声で歌って頂きました。娘の曲が初めて世に出た感じです。多く

3時間42分の激走

仏領ニューカレドニア島

心地よい南国の海風と遊ぶ

小林　和雄

「え、なんでオレが？」というのが、通知をもらったときの驚きだった。「エフエムたちかわ開局記念で、貴殿が本年度ニューカレドニア・マラソンの招待選手に選ばれました」と文面にある。

立川マラソンを第一回目から連続二十六年走り続けている立川市民ランナーということが今年の選考基準だった。とにかくタダで行けるのだ。しかもあの天国に一番近い島といわれているニューカレドニアで走れる。こんないいことはない。二つ返事で申し込み、女房も誘った。

東京から直行便で八時間、時差は二時間で、今は冬だという当地に到着。気温二〇度、湿気なしで肌寒いくらいだ。青い海に囲まれて、さわやかな風が心地よい。

さっそく、名物のシーフード料理店に向かう。見事に大きなロブスターや蟹、牡蠣などが豪華に大皿の上に盛ってある。フランスワインを飲みながら南国の味を心ゆくまで堪能した。そうそう、ここはフランス領なのだ。

あくる日、大会会長宅での歓迎会に招かれた。プール付きの瀟洒な豪邸だ。リビングでは大きな水槽に色とりどりの熱帯魚が泳いでいる。生きたままのサンゴ礁が豪華に彩りを加える優雅な空間があり、しばし見入ってしまう。

シドニーから来たというオーストラリア招待選手たちとエールの交換。彼らは正真正銘、足の速い選手で、しかも若い。ニューカレドニアで一番速いという選手も若くてかっこいい。それに比べてこちらは還暦直前の市民ランナー。いやいや、同じ招待選手なのだと自分に言い聞かせる。

会長が出迎えレイをプレゼント。右隣は妻の由美子

開会式では招待選手が次々名前を呼ばれ、出席者の前でゼッケンを受け取り紹介される。私のゼッケンはなんと、エリート選手の六番だ。ああ、みんな誤解してるだろうなあ、と悔んだが説明する余裕はない。エリート選手と思い込まれたまま、つンナーが一斉にメイン会場の競馬場前を走りだす。緊張と喜びの混じった一瞬だ。

コースはすぐ海岸通りに入り、南国の雰囲気が漂う青い海と椰子の木が続く道をひた走る。給水ポイントではボランティアの子供たちが水のはいったコップを選手に渡してくれる。長い道のりのマラソンでは、この給水がなにより楽しみであり、ほっとする。

コースを往復し半分の二〇キロを過ぎたあたりから、急に走っている人がみな右に折れていく。ハーフマラソンにエントリーした人たちだ。曲がらずに走り続けるわれわれフルマラソン選手の数は急に減ってしまう。前にも後ろにも選手がいない。二往復するコースなので、行き交う人たちとはエールの交換ができるが、あとはひたすら一人で走る、孤独なランだ。

日差しはあるが湿気が少ないせいか、汗が気にならない。椰子の木々が目に優しく、海風が気持ちよく流れ、走るには上々のコンディションである。すると、強い向かい風が吹いて前に進むことができない。さらに、時折訪れる急な坂。スピードが急に下がるがなんとか気力で登る。

これが最後の坂か。少し痙攣しはじめた足を前に前にと進める。応援する人が増えてきた。ゴールまであと少しだ。意識もうろうとする中、ただゴールを目指し、競馬場のゲートをくぐる。三時間四二分。倒れこむように進むと、出迎えの人たちから「お疲れさん」の声がかかる。現地ボランティアが次々と飲み物やフルーツを差し出し、手厚いケアをしてくれる。

現地入りしてから妻も急に走りたくなったらしく、五キロの部に出ることになった。フルとほぼ同じコースを走り、見事に完走。夫婦ともども爽やかで思い出深い走り

育）夫妻は感極まった。二〇〇七年五月五日午後、西国分寺駅前の市立いずみホールで「マーガレット歌の会」（南高まりさん主宰）が、第二回発表会を開いた。全一二曲のうち、三〇年前、国立音大付属中三年だった愛子さんが遺した曲を、三四人のメンバーが心をこめて歌いあげた。譜面が初めてメロディーになったのだ。

この日、指揮とピアノ伴奏をした南高まりさんは、愛子さんの中学時代からの同級生だ。愛子さんは一九八二年二月五日朝、無念の交通死をとげた。国立音大作曲科の一年生、一九歳目前だった。中三全生徒の課題曲から選ばれた優の方のご努力のおかげです。

南高まりさんの話　三〇年ぶりの演奏で、愛子さんの豊かな才能に改めて驚きました。素敵な笑顔を思い出します。

名木田恵子さんの話　七七年の杉並公演のテープを渡したいとご連絡があったのに、私の仕事の都合で三年も延び延びになり、その間に愛子さんは亡くなられた。会うべき人には早く会うことだと反省したものでした。あれから三〇年が経ったなんて思えません。演奏を聴いて、これはもうご縁としか言いようがないと思いました。

（広報委員会・錦織文良）

＝稲門会通信NO36号から

嬉し恥ずかしホールインワン

四月一六日はやや小雨が心配な曇り空。立川ゴルフ早慶戦、インスタートの一〇時過ぎの一二番でした。私の打順は谷澤さん（三田会）、小木曽さん（稲門会）、小田島さん（三田会）のあとの不動の四番。八番アイアンを手に持っているのにバッグの中を捜しながら「前のホールかどこかに忘れてきたのかなあ」とひとり言をブツブツ。そして手に持っていることに気付き、ホッとして打席に立ちました。私の場合は万が一オンすれば、それがどれだけホールから離れていようと幸せな気分になります。ちなみに私のショートホール年間オン率は一〇％ぐらいです。「しっかり当たった。もしかしたら乗るぞ」。一二番グリーンは目線より少し上でした。手前に落ちて左にこぼれたなと思って、一生懸命さがしましたが見つかりません。念のため穴を覗いたらボールが入ってました。

「ホールインワンだ」と周りの誰かが叫びました。後ろの組からも「ホールインワンだって」という声が聞こえました。もっと遠くからは、コースメンテナンスのキャディさん（上野さん）の「セルフは駄目ですよー」という声が聞こえました。

「恥ずかしいなあ」「まいちゃったなあ」。昼食の味、まったくわかりませんでした。

ついてました。武蔵野ゴルフクラブ営業事務課の高橋典宏さんは、私がグアム赴任中に、グアムのゴルフ場カントリークラブオブパシフィック（CCP）でお世話になった方でした。

「保険会社がいいといえばいつでも印を押しますよ」とゴルファー保険は私が勤めていた会社（淺沼組）の系列が代理店です。あれこれ言えば「泣き落とす」ともできます。かくして（社）ゴルファーの緑化促進協力会にも少しばかりの寄付をさせていただいて、無事保険金を受け取ることができました。

栄冠の波多野さん

海外フルマラソン二人が完走

空港に大会

多彩なお祭り応援

底抜け陽気のアメリカ人

鈴木一廣

サンディエゴのロックンロールマラソン

六月三日、ロサンゼルスのすぐ南にあるサンディエゴで行われた「ロックンロールマラソン」を走ってきた。以前から、大会の名前が面白いので関心を持ってはいた

が、調べていくうちにますます興味がつのり「走ってみよう」となった。

エリートマラソンではあまり例がないようだが、世界の市民マラソン大会の中には、かなりお祭り的な大会が多い。仮装ばかりのランナー、途中でのドリンクにワインが出たり、多いのはやはり音楽やダンスで応援する大会だろう。アメリカのどこかの大会で、タキシードを着たピアニストがレース中ずっとピアノを弾き続けて応援しているという写真を見たことがある。数年前に参加したパリマラソンでは、四二キロのコース沿いに四〇カ所でバンド演奏やダンスをやっており驚いたものだ。一人で手回しオルガンを弾いたり、ラテンバンドがあったり、フォークダンスを踊っていて思わず足を止め聞き入ったものだ。オランダのロッテルダムマラソンでは、驚き嬉しかったことだけど、上半身裸の女性シンガーが激しく歌っていたことがあった。

さてロックンロールマラソン。二六マイル（アメリカでは四二キロのマラソンもマイルで表示）のコース沿いに二五カ所のステージがあって、すべてのステージでロックンロールを演奏。エルビス・プレスリーの衣装をまとった何人ものランナーがいたが、一万七千人のランナーが走り、沿道のステージではロックンローラーたちも汗をかいて演奏をして応援してくれた。腰を振り振り絶唱する女性ボーカルや「みんな、頑張ってるかぁ」って呼びかけるロッカー。それから楽しかったのは、総勢二千人の高校生チアリーダーが途中途中でダンスをしたり声援を送ってくれたことだ。

とにかくアメリカ人は陽気である。こんなに楽しく走ったことはない。日本での応援はただ旗を振るのが多いが、これからはパフォーマンスがあって、見るだけでも面白い大会がどんどん増えてくるといい。今年から始まった東京マラソンにはその気配がうかがえるので期待したい。（S38法）

いに大会当日のスタートの号砲は鳴った。四、五百人ほどのランナーが、調べていくうちにますます興味がつのり「走ってみよう」となった。

エリートマラソンではあまり例がないようだが、世界の市民マラソン大会の中には、かなりお祭り的な大会が多い。仮装ばかりのランナー、途中でのドリンクにワインが出たり、多いのはやはり音楽やダンスで応援する大会だろう。アメリカのどこかの大会で、タキシードを着たピアニストがレース中ずっとピアノを弾き続けて応援しているという写真を見たことがある。数年前に参加したパリマラソンでは、四二キロのコース沿いに四〇カ所でバンド演奏やダンスをやっており驚いたものだ。一人で手回しオルガンを弾いたり、ラテンバンドがあったり、フォークダンスを踊っていて思わず足を止め聞き入ったものだ。オランダのロッテルダムマラソンでは、驚き嬉しかったことだけど、上半身裸の女性シンガーが激しく歌っていたことがあった。

さてロックンロールマラソン。二六マイル（アメリカでは四二キロのマラソンもマイルで表示）のコース沿いに二五カ所のステージがあって、すべてのステージでロックンロールを演奏。エルビス・プレスリーの衣装をまとった何人ものランナーがいたが、一万七千人のランナーが走り、沿道のステージではロックンローラーたちも汗をかいて演奏をして応援してくれた。腰を振り振り絶唱する女性ボーカルや「みんな、頑張ってるかぁ」って呼びかけるロッカー。それから楽しかったのは、総勢二千人の高校生チアリーダーが途中途中でダンスをしたり声援を送ってくれたことだ。

とにかくアメリカ人は陽気である。こんなに楽しく走ったことはない。日本での応援はただ旗を振るのが多いが、これからはパフォーマンスがあって、見るだけでも面白い大会がどんどん増えてくるといい。今年から始まった東京マラソンにはその気配がうかがえるので期待したい。（S38法）

日を追うごとに幸せ感が膨らんできました。沢山の方に祝福していただきました。

ご声援いただき、ありがとうございました。

（S38建築）

をさせてもらった。どこか優しさに満ちた、天国に一番近い島ニューカレドニアにすっかり魅された旅だった。（S47理工）

「校歌に早稲田の心を思う」

鈴木茂夫会員の記念講演要旨

二〇〇七年一〇月一四日の第三四回定時総会で鈴木茂夫氏が記念講演する「校歌に早稲田の心を思う」の要旨は次の通り。

今年は早稲田大学創立一二五周年、校歌誕生一〇〇周年である。校歌が生まれてまさに百年。その卓抜と品位、そして早稲田につながるすべての人を一つに結ぶ魅力とは何か。

作詞・相馬御風、作曲・東儀鉄笛の名は、私たちの心に深く刻まれている。創立二五周年を機に校歌を制定したいと、坪内逍遥、島村抱月の二先生が責任者となり、その年に卒業したばかりの相馬昌治こと御風に作詩を命じ、それから一〇数日後、御風は作詞を完成させた。

日本の近代の詩歌は、明治三〇年に島崎藤村が処女詩集の『若菜集』を刊行。七五調による五一編の詩が描かれている。

これに対し、われわれの校歌は八七調・六行の文語体で構成。それは異色の存在だ。八七調であるが故に、その独自の音律、つまり荘重なリズムを生み出している。

韻律にかかわると見られるものに、校歌に現れる名詞の多くが三音であることも注目すべきことの一つだ。それらは都、早稲田、いらか、われら、母校、日ごろ、抱負、進取、現世、久遠、理想、行く手、古今、文化、うしお、使命、天下、常磐などである。音の持つ歯切れの良さがここにはある。

「久遠の理想」「理想の影」「理想の光」と置くことで、理想の姿を鮮烈に描いている。「われらが行く手を」と「われらが行く手は」の対置。「早稲田の森」には「常磐の森」が対置されている。

校歌の内容の特色は、一番に建学の精神、勉学の目標。二番に東西文明の調和、世界的視野の展開、理想達成への努力。三番には学生も卒業生も一体となって仰ぐ母校・理想である。

そこにちりばめられている主要な語句は何か。

その最大のものは「われらが」である。「われら」は、一番で三回、二番で一回、三番で二回現れる。校歌における「われら」とは何か。

一番の「われら」は、早稲田に学ぶ「われら」であり、その「われら」の理想。そして「われら」と歌うことで、早稲田に学ぶ個々の「われ」は、互いにむつみ合い学びあい、一つの理想に結ばれる「われら」であることが自覚される。

二番の「われら」は「大なる使命を担いて立つ」「われら」だ。その行く手には、限りない努力を積み重ねる「われら」の決意がこめられている。

三番の「われら」は、学舎にある「われら」と、学舎を飛び立った「われら」の二つの「われら」がひとつとなって母校と理想の光を仰ぎ見る「われら」である。

次に、私は校歌一番冒頭の「都の西北早稲田の森に」の早稲田に着目したい。ここにいう早稲田とは何か。早稲田の名には、大隈の抱いた建学の志が結晶している。

私たちが大隈さんを建学の父と仰ぐのは、その志の体現者だからだ。早稲田とは実に志であることを胸に刻むべきだ。

次に「現世を忘れぬ久遠の理想」の一節にある「現世」と「久遠」の二語に注意を払いたい。「現世」「久遠」の二つは、共に仏語、つまり仏教用語である。御風と作詩に協力した三木露風の二人には、仏教に対する共通の認識があったのではないか。

校歌二番。その冒頭は「東西古今の文化の潮一つに渦巻く大島国の」と始まり「大なる使命を担いて立てる」と続く。二番には、大隈重信が力説していた「東西文明の調和」が歌われている。

「大島国」とは何か。それは大隈さんの言葉ではない。御風が創作したものだ。

三番における「心のふるさとわれらが母校」は、親友・三木露風の助言による。私は卒業して数十年を経て、多くの校友とスクラム組んで斉唱していた時、ここに至ると、にわかに胸に迫ってくる感慨があった。

ある日、浄土三部経の一つ『阿弥陀経』の中の「俱会一処（くえいつしょ）」の文言に接した。それは「人びとがともに一つの場所・浄土に出会う」という意味だ。

この「俱会一処」のイメージこそ、三番における母校の意義、そして理想を歌い上げている根底にあるものではないかと感じた。

母校を描き、母校を歌うために浄土思想における「俱会一処」のイメージが蒸留され、薫り高く結晶していると言いたい。

詩作を通じて結ばれた二人、そこには浄土思想が通底していた。

それが根底にあり、厳密な言葉の選択と配置がなされているからこそ、三番はひときわ私たちの心を捉える。そこには、秘めやかな「祈り」が込められている。

（S29一露文）

不倫か否か極どい判例

榎本弁護士の記録から

夫三七歳、不動産会社に勤めている。妻は三四歳である。結婚して一〇年、子供は九歳の女の子と四歳の男の子の二人である。

妻は、最初の女の子が生まれたころに浮気をした。夫は妻を殴ったが、暴力はそれきりである。すでにそのころから夫婦関係はギクシャクし始めていた。夫は、子供はかわいいが、妻とはあまり口を利かなくなり、彼女は夜一人で酒を飲み、時々、子供を殴るというキッチン・ドランカーの傾向がある。もう三年くらい、二人の間には性的関係はない。夫は、このままでは家庭がだめになると思いながらどうしようもなく、子供が二人いることもあり、離婚まで考えたことはなかった。

そんななか、彼女は酒を飲んだ勢いか、男との不倫を告白した。夫は驚き、探偵社に彼女の素行調査を依頼した。そしたら、二人が仲良く手をつないで歩いているところと、一緒にホテルに入るところの写真を撮った調査結果が出てきた。夫は頭にきて離婚の調停を起こし、相手の男に慰謝料の請求訴訟を提訴した。妻も離婚は承諾し、子供は夫には仕事上育てられないので、妻に親権を渡した。それはいいが、男との裁判では、男は不倫の事実は認めたが、この夫婦関係が破綻しているので、もう不倫ではないと主張した。

男の話だと、彼らはちょっとしたきっかけで知り合い、妻は飲み屋などで、夫への不満や家庭の冷たい状況をぶちまけることが多くなった。男の方も離婚したばかりで、自分たち夫婦の経験を彼女に話し、意気投合していった。そして、その話し合いが愛情に発展していったというのである。夫は、いずれにしろ不倫ではないかと思っていたら、夫婦関係が破綻している場合は不倫ではないという判例があるということであった。確かに当方は離婚したし、不倫があったころも関係は冷却していて、性的関係もなかった。裁判は負けそうだという。そのうちに男と妻は結婚したので、子供のためもあって裁判を取り下げたのである。

こんな結末もあるのである。

（S33法）

同好会連絡先

稲酔会	古川剛久	535-0717
立川散策の会	中村克久	527-3559
ゴルフ愛好会	江藤英彦	574-8835
駅伝同好会	小林和雄	526-3245
ラグビーを愛する会	佐々木等	522-6846
稲美会	竹内雅美	523-4506

スポーツ振興 早慶の手法

奥島前総長がぶちあげた「一二五周年までに全競技で優勝」のスローガンは、野球を筆頭に各競技が著しい前進をとげてはいるが、全体の実現にはまだ程遠い。早稲田スポーツ振興の取り組みと、ライバル慶応の対応を、朝日新聞は二〇〇七年九月一三日付朝刊の連載「大学スポーツ考」で次のように論評している。（広報委員会）

「野球、ラグビーもいいけど、箱根駅伝を一緒に走りましょう」。今年2月。年に1度の早慶理事懇談会で、そう話した早大の村岡功理事は、慶大・安西祐一郎塾長に声をかけられた。「あんまり強くならないでね」

ほんの10年前は低迷していた早大スポーツが復活した。野球やラグビーはもちろん、関東大学リーグ2部から東京都リーグまで落ちたサッカーは06年、9年ぶりに1部に復帰。07年にはスキーが全日本学生選手権で40年ぶりに総合優勝した。

「『駅伝やラグビーが弱くて正月のテレビが楽しくない』とOBの突き上げがすごかった」。スポーツ振興担当の村岡理事は振り返る。

当時の奥島孝総長が07年の創立125周年までに「全競技で優勝」を宣言。全学部長も参加して「スポーツ振興協議会」が発足した。協議会が00年4月に出した答申はこう記している。

「世界に通用する大学は研究・教育だけではなく、スポーツにおいても輝いている」「ハーバード大学は、五輪において52名のメダリストが輩出している」

各論で反対はあっても、総論では賛成だった。大学あげてのスポーツ強化が始まった。

まず入試改革。従来の特別選抜入試は50人枠で「内申点で3・5以上」など出願条件が厳しく、学力試験もあった。新たなスポーツ推薦入試は試験をなくし、各運動部長が推薦する選手を書類審査と面接だけで獲得できる。07年には約80人が入学。これとは別にトップアスリート入試でも7人が合格した。野球、ラグビー、陸上の看板競技には1千万超の強化費を出す。手弁当だった指導者に「客員准教授」など大学のポストを用意、専任で指導する体制を整えた。

だが、村岡理事には消せない気持ちもある。「あんなことをして馬鹿じゃないのと、慶応は思ってるかもしれない」

74年、作新学院高の江川卓投手は慶大を受験して落ちた。それから三十数年。慶大も選手獲得にAO入試や付属高に導入した推薦入試は活用しているが、それ以上は踏み込まない。早大がスポーツ強化に大きくかじを切ったとき、慶大体育会を担当する山崎元・常任理事は「学業がきちんとしたレベルまで達していることが前提。早稲田に追従することは許されない」と学内向けに記した。

最高学府にとってのスポーツとは何か。「社会に優秀な人材を送り出すのが目的なら、成績で門戸を狭めるのは考えが狭いのかもしれない」。山崎常任理事は早大の“実験”を見守っている。

学制改革で短縮入学

学院から早稲田へ 空腹を郷里九州で癒す

古川剛久

昭和二三年に旧制第二高等学院に入学した。深刻な食糧難で栄養失調となり、一学期を終えてしばらく九州に帰郷、夏休みを郷里で過ごして体調も回復した。二学期からは、空腹を抱えながらも、学生生活を過ごすことができるようになった。

とはいえ、二学期後半から学制改革の方針が本格化し、米国主導により翌昭和二四年度から六・三・三・四制移行が決定し、クラスは騒然となる。というのは、我々が旧制最後の卒業生となるはずだったからだ。前年に専門部に合格したものの、一年浪人して再度挑戦、ようやく学院入学を果たしたクラスメイトは悲憤慷慨した。しかし占領軍には逆らえず、二四年から新制大学一年生となった。父親だけは修学年限が一年減ったことを喜んだ。

文学部を希望した私に、父親は商学部を薦めた。私はスポンサーの意向に従ったが、文学部の教室によく出入りした。商学部では中島正信教授が「諸君、新制大学は本来の大学ではない。大学院まで進学するつもりで研鑽を積むように」と、教壇から獅子口されていた。授業の合間に、大隈講堂わきの喫茶店「エリーゼ」と「早苗」に行き、コーヒー一杯でクラシックのレコード鑑賞にふけった。そのころ、音楽喫茶と称するコーヒー店がお客の注文でレコードをかけていた。

昭和二七年、夏休みから帰京した。二学期の初めから体調がおかしい。微熱が続き肺結核の症状が出てきた。町の開業医からある日「来週から左肺の気胸をやろう」と言われた。秋の就職試験を控えていたので、翌年卒業できるだろうか、と不安にかられた。その時の学院からの友人が、当時肺結核の名医といわれた人を紹介してくれた。ところが、改めて撮ったレントゲン写真を指して「君の肺はとてもいい肺だ」と言われ、安心と喜びが全身を包んだ。

かくして、昭和二八年は、旧制と新制が同時卒業となった。すなわち、大学卒業生が例年の倍となり、しかも朝鮮戦争の特需景気も終わりに近付いて景気は下降局面に向かっており、卒業生には厳しい時代となった。飯野海運は面接で、財閥解体後の第一物産（現三井物産）は学内選考ではねられたが、二六年に無尽会社から転換した日本相互銀行に拾われた。

卒業試験で単位を取り残しの必修一般教養科目生物の出来栄えが不安で、担任教授の研究室を訪れ合格点をお願いしたら「あと一年やったらいいじゃない」と、いとも簡単な解答にびっくり。「就職も決まっており、経済的にも留年は許されません」と懇願した。その時、一緒に研究室に同行してくれた友人が、前年、私に結核の名医を紹介してくれたO君である。卒業後もゴルフ、旅行など、共に楽しんだが、昨年暮れに他界したのが残念でならない。人生の際どい分岐点で救ってくれたO君には感謝してもしきれない。

こうして、五年間の早稲田の生活を振り返ると、父親の貧しい仕送りと育英資金で、苦しい中でも楽しい学生生活を過ごすことができた。私にかかわってくれた方々に感謝あるのみだ。（S28商）

TOKYO大樹法律事務所
弁護士 榎本信行（S33・法）
新宿区新宿一―一〇―三 太田紙興新宿ビル八階
TEL（〇三）三三五四―九六六一
FAX（〇三）三三五四―三三二四

鴛海公認会計士事務所
公認会計士 税理士 鴛海量良（S37・政経）
立川市曙町二―三二―三 サンパレス立川三〇二号
TEL（〇四二）五二七―六一九一
FAX（〇四二）五二四―九五七〇

社会保険労務士法人 木村事務所
代表社員 社会保険労務士 木村辰幸（S63・社会）
労働保険事務組合 経営者多摩福栄会
立川市上砂町五―四八―二 H・K・ビル四階
TEL（〇四二）五三五―三〇七〇
FAX（〇四二）五三五―三〇七三

宮野司法書士事務所
司法書士 行政書士 宮野孝雄（S57・社学）
昭島市中神町一一五七番地三四
TEL（〇四二）五四六―六四一八
FAX（〇四二）五四六―六三九九
携帯 〇九〇―八三二三―八四〇五
E-mail：m-office@luno.ocn.ne.jp

建築設備設計事務所 三井企画株式会社
建築設備士 代表取締役 小林和雄（S47・理工）
立川市錦町四―五―一五
TEL（〇四二）五二六―三二四五
FAX（〇四二）五二二―二八一八

電子制御機器の開発設計 技術コンサルタント
株式会社 エルテック
代表取締役 長野長正（S32・理工）
東大和市仲原一―三―一三
TEL（〇四二）五六六―一〇三三
FAX（〇四二）五六六―一〇三三

校友会を抜本改革

幅広い意見・討議を求め順次実行

大学側にも厳しい注文

代議員会で代表幹事

秋季代議員会が九月二八日、井深大記念ホールで開かれ、全国から三百七十人余が参加した。二〇〇六年度決算審議のほか、校友会組織の見直し・再構築と、創立一二五周年記念事業などについて報告があった。

挨拶に立った瀬下明・代表幹事は、あらまし次のように語った。

一二五周年は尊いか、お目出度いことか、といえば、それは勿論である。全卒業生で祝おうではないか。ひるがえって、企業の寿命はせいぜい百年だ。今日の企業は、もう周年行事など表立ってやらなくなった。祝うどころか、むしろどう変わるかということに取り組んでいる。大学もいかに変わるか、そこを中心に考えるべきだ。

ところで、こんな奇特な先輩を紹介したい。今日、物故者として黙祷を捧げた荒川稲門会の宮永正巳さん(78)だ。一〇月一〇日のホームカミングデーで、一二五周年記念の校友会表彰をする旨を電話で伝えたら、年金生活で酸素ボンベを引きずっている状態なのでとても出席できないとおっしゃる。つい一週間前のことだ。その宮永さんが、一〇万円を母校に寄付しておられた。グッときた。大学はこんな人をもっと大切にすべきだ。この浄財は大事に使ってもらうよう強く要望したい。

二年前から、卒業生に年五千円の校友会費を一〇年分前納してもらう制度にした。若い人たちも支払いを始めたのだから、年長OBも払おうではないか。校歌を歌って泣く割には、金払いの悪い校友が多い。周年寄付でも、お願いする側の顔がゆがんでしまうことがしばしばだ。

この挨拶に続いて、校友会組織の見直しについて報告と説明があった。

大学は、一二五周年を「第二の建学」として、さまざまな改革案を「Waseda Next 125」として策定中だが、校友会も三年後の二〇一〇年に設立一二五周年を迎えるにあたって、組織の問題点を抜本的に見直し、活性化を図って大学への支援を強化していく方針だ。

瀬下代表幹事によると、提案も含め校友会改革委員会で検討した組織強化策を、校友会設立一二五周年の二〇一〇年に向けて実行していくという。その実施プランについては、二〇〇八年三月八日の春季代議員会で最終的な決定として報告し、それを各支部・稲門会で討議することになる。意見の締め切りは今年末だ。

なお注目の一二五周年記念募金は、申し込みを含め九月末現在で約一六五億円。募集期限は来年三月末だが、二〇〇億円の目標額達成は極めて厳しい状況となった。

（広報委員・代議員　錦織　文良）

三頭山登頂で計画終了

来年は日本橋から甲州街道

散策の会

立川散策の会は、三年前の四月スタートだから、もう三年半になる。今や会員は二〇人を超え、毎月二回（第二、第四火曜日）ウォーキングを楽しむようになった。

第二火曜日は比較的軽いウォーキングで、主会場は春夏秋冬の昭和記念公園に。一周四キロ（立川駅から片道一キロを加えると六キロ）を歩く。今年は四月のチューリップ祭と六月の初夏の公園を散策。このほか、一月には上野の東京芸大や谷中を散策した。三月には吉野梅郷を、五月は多摩動物公園を巡った。暑い七、八月は休み、九月は玉川上水の源流をたどり、一〇月は青梅宿を歩いた。

第四火曜日は健脚向き。昨年は笠取山（一九五三メートル）登頂を最終目的にする多摩川源流紀行を半年がかりでやりとげた。今年は秋川源流の三頭山（一五二八メートル）を目指し、二月から歩き始めた。第一回は立川から拝島を多摩川に沿って歩き、三月には多摩川分岐点から秋川に沿って五日市駅まで、四月には五日市駅から光厳寺まで、五月は光厳寺から秋川渓谷を檜原村本宿へ。六月は本宿から下和田バス停までを踏破した。一〇月二三、二四日は数馬で一泊し、三頭山を目指す。

今年の秋川源流の計画には、ご当地のあきる野稲門会会員の本田弘康、浜田賢一郎、小野三馬さんが参加、秋川渓谷の案内や記録写真を多数撮り協力して下さった。

来年は日本橋を基点に甲州街道を歩く。特に高尾から大月、甲府は甲州街道の古道をたどりたい。

歩きながらの会話もお互いの友情を深め、学ぶことが多い。会費は年千円。出欠は当日の自分の体調次第で自由である。立川稲門会員の参加を期待したい。

（S36政経・中村克久）

【散策の会会員＝二九人】井川芳朶、伊藤暢子、内野光男、小木曽夏樹、佐々木等、鈴木茂夫、田中清勝、寺島暢夫、中村克久(代表)、長野長正、錦織文良、原健一、広瀬俊夫、古川剛久、森下公明、横幕玲子、大岩泰世、鴛海量良、竹内雅美、谷池教子、富樫稔、中村信、硲寛、肥後昭一(家族・友人)由良慧子、宮崎京子、岡崎温子、寺島忠子、佐々木志保子、錦織雅子

早稲田目指し10キロウォーク

参加5人

創立一二五周年を記念した校友会の公認行事である「ワセダに向かって一二五市民ウォーク」が九月二三、三〇と一〇月七、一四、二一の五週連続計五日行われ「立川散策の会」も参加した。

千葉、茨城、栃木、群馬、山梨と静岡の六カ所から早稲田大学を目指した。立川は第三四回定時総会開催日一〇月一四日午前の甲州街道ルートに参加した。ルートは八王子から立川駅までの一〇キロ。

中村克久代表の「校友会の公認行事だから、なんとしても参加したい」という強い希望と呼びかけで実現した。

（広報委員会）

東京貿易株式会社
代表取締役会長 町田 弘（S35・法）
中央区八丁堀二―一三―八
TEL（〇三）三五五五―七〇〇三

米田税務会計事務所
税理士 米田 典弘（H6・社会）
立川市高松町三―一四―一四OTビル3F
TEL（〇四二）五二六―二六三九
FAX（〇四二）五二六―二六一〇
Eメール95980lhkw@zeirishikai.org

学校法人 実践女子学園
理事長 高橋 芳樹（S34・商）
日野市大坂上四―一―一
TEL（〇四二）五八五―八八〇四（代）
FAX（〇四二）五八五―八八〇八

志村エステート株式会社
取締役 志村 順子（S40・文）
立川市富士見町四―六―一一
TEL（〇四二）五二二―〇六一一
FAX（〇四二）五二二―〇六一二

医療法人 社団健医会
西砂歯科医院
院長 浅谷 佳秀（S62・法）
立川市西砂町五―三七―八
TEL（〇四二）五三一―四一二九（代）

大下・広瀬共同会計事務所
公認会計士 税理士 広瀬 明夫（S48・商）
東大和市中央一―五九七―二
TEL（〇四二）五六二―〇四五八
FAX（〇四二）五六二―二六五〇

法学部出て会社勤め 今は歯科医の変り種

新入会員の浅谷佳秀氏

早稲田の卒業生で歯科医師というのは珍しいのではないかと思います。私は早大法学部卒業後、長崎大歯学部を出て歯科医師になり、現在は立川市の医療法人社団健医会・西砂歯科医院で院長として勤務しています。常勤歯科医師六人、治療ユニット一二台を擁し、一カ月の来院患者は二千人を超える国内でも有数の規模の歯科医院です。

母校として印象深い思い出が多いのは早稲田です。早稲田で過ごした日々は、今思うと天国そのものでした。講義やゼミの内容はほとんど覚えていませんが、サークル（企業法研究会）に入り浸った日々、合コンや飲み会、麻雀、友人たちとの旅行、居酒屋やテレビ局でのアルバイトの記憶など、いくらでも脳裏に鮮やかに呼び覚ますことが出来ます。

昭和六二年の卒業後は、東陶機器に就職し、広告宣伝部で働きました。大企業勤務が肌に合わなかった私は二年で退職し、アルバイトをしながら二年ほど過ごし、自動車会社を退職して医学部再受験を志した友人の影響を受け、歯学部を再受験しました。入学してみると、クラスの定員六〇人中一〇人以上が私のような再受験組でした。その中でも、文系出身でサラリーマン生活の経験もある私は変わり種だったようです。

小六になる長男は「早稲田に進学して、パパみたいな歯科医師になりたい」と言います。早稲田には歯学部がないことを言うと意外そうでしたが、息子が早稲田に憧れているということは嬉しくもありました。（S62法）

立川稲門会の活動を振り返ってみると、稲門祭の活動が例年より活発である。

▼時系列的に箇条書きする。

一、来年二〇〇八年の稲門祭は東京三多摩支部が主幹となった（校友会本部の事業委員会で決定）。

二、昨年一一月三日に相模原市のポール千寿閣で行われた東京三多摩支部大会（町田・調布主幹）で二〇〇八年稲門祭実行委員長に当会の志村順子副会長が内定した。志村副会長には、来年の稲門祭に備えて今年の稲門祭の副委員長にも就任していただいた。今年は母校創立一二五周年なので忙しい。

三、そのうえに来年の稲門祭に備えて、東京三多摩支部内のおもだった人たち一二人にお願いして稲門祭準備委員会を組織し、志村副会長を中心に、昨年一二月から今年八月までに五回の会合を重ね、その結果、本部レベルの二〇〇八年稲門祭運営委員会が発足。九月二〇日に第一回委員会を開いた。

四、さらに今年八月二五日大隈会館で行われた東京三多摩支部会長会で、同支部の主幹が持ち回りで支部長を立川稲門会が、副支部長を国立稲門会が担当と決定した。

▼一二五周年記念募金全体の申込金額は九月二五日現在で一六五億円。来年三月末までの目標二百億円達成は実現困難の様相だ。一方、来年、創立一五〇年を迎える慶應義塾大学が一昨年から始めた募金目標二五〇億円はすでに一七〇～八〇億円に達した模様。このままで行くと目標は軽く達成しそうである。

この差は一体何なのか。残念ながらひとことで言えば、母校愛を持つ、言い換えれば母校に誇りを持つ卒業生の数の差と言えるのではないか。

▼立川稲門会の一二五周年記念募金二千九百七十三万円の内訳は

個人　二、三〇八万円
団体　一〇五万円
法人　五六〇万円

である。団体の一〇五万円は二〇〇〇年から始まった年会費三千円のうちの千円を毎年募金に充てた累計である。会員皆さまのご協力に心から感謝とお礼を申し上げたい。個人募金はこのほかに一億一千四百万円ある。

▼ご存じのように会報は継続広告スポンサーである会員の温かいご支援により成り立っている。これまでの一六人に加え、今回から新たに廣瀬明夫会員（S48年商）と浅谷佳秀会員（S62年法、長崎大学歯学部卒）から提供していただいた。これで一八人となった。心から深く謝意を表したい。また町田弘会員（S35法）からは、自分が現役中は好きなだけ請求して結構、というお申し出があった。

会報が会員の自発的な支援により制作費が賄えるということは、稲門会の理念に沿ったボランティアの重要な一環と位置づけられると思う。誠に喜ばしいことだ。

事務局便り

▼五月一三日に女性センター・アイムホールで行われた早稲田フエスタ一二五イン立川「0（ゼロ）からの風」上映会は、東京三多摩支部中部ブロック主催として催し大好評だった。

しかし、気になったのは会員約一六〇人に上映会の案内を出したのに、役員を除く会員からの申し込はたったの四人しかいなかったことだ。忙しかったのか、映画に興味がないのか、失礼ないい方かもしれないが感動する心を失ってしまったのか…。この映画をご覧になっていない方はぜひ見ていただきたい。上映場所はインターネットで映画名そのままで検索していただければ、すぐにわかる。

▼現役学生との交流は、立川稲門会に限らず全稲門会の課題だ。地元の現役学生数（九月現在）は一年生四一人、二年生三二人、三年生二九人、四年生二九人（うち五年生以上は七人）、合計一三一人である。このうち定時総会には一年生と四年生に案内を出しているが、例年の回答率は一割強、出席者に至っては数人しかいない。

大学当局は現役学生の氏名も住所も、個人情報保護法施行のはるか昔から公開していない。現役学生に案内を出す場合は、大学にまず人数を教えてもらい、その分の案内状を作成し、切手を貼った郵便物を大学に渡し、投函してもらう。もちろん郵送代も稲門会負担であることはいうまでもない。つまり、市内のどこに誰が住んでいるのか分からないのだ。これではアプローチのしようがない。

現役学生の回答率が低い理由として、稲門会というものに興味がない、知らない、行きたいけど仲間がいない、一人で行くのはイヤだ…理由はいろいろあるとは思うが、正直なところ分からない。

一八八五年設立の校友会は、改革の一つに「学生との連携」を掲げ、学生稲門会を全都道府県に発足させ、校友会行事や支部企画イベント、総会などに参加させるなど、学生と校友のコミュニケーション強化を進めることにした。これまで校友会がまったく取り上げなかったことに、立川稲門会はすでに取り組んでいるが、学生との連携を校友会改革の柱の一つに取り上げようとすることは評価してよいと思う。

▼会報の編集および制作では、錦織文良広報委員長、中村信広報副委員長を中心に各広報委員に大変お世話になった。

また、例年のことながら、中村副委員長のご子息、大（はじめ）さんは稲門会通信の制作も含めて欠かせない大きな存在となった。心から厚くお礼申し上げます。

▼母校はいよいよ今年一〇月二一日に創立一二五周年記念式典を行う。私たち校友は、この節目を心から祝い、第二の建学に向けてさらなる母校の発展を心から期待したい。（鴛海量良）

ピザーラお届け！
㈱ピーエスエス
尾上研児（H2・理工）
ピザーラ青梅店（〇四二八）二四―一五〇〇
ピザーラ福生店（〇四二）五三〇―二三〇〇

立川駅のお弁当
株式会社 エヌ・アール・イー中村亭
代表取締役 中村克久（S36・政経）
立川市柴崎町二―三―三
TEL（〇四二）五二四―二〇一（代）
FAX（〇四二）五二六―二六〇〇

㈲アイ・エー・ピー多摩
代表取締役 中村信（S38・文）
立川市曙町二―六―一〇
TEL（〇四二）五二三―三三三一（代）
FAX（〇四二）五二三―三三三二
Eメール iaptama@dream.com

人材育成・社員研修
㈲オフィス広瀬
代表取締役 廣瀬俊夫（S39・文）
立川市西砂町一―六六―一三
TEL（〇四二）五三一―二六八七
FAX

立川税理士法人
税理士 村野俊輔（S57・政経）
立川市柴崎町二―四―九 村野ビル2F
TEL（〇四二）五二二―八九五〇
FAX（〇四二）五二二―八九五一

多摩中央葬祭株式会社
代表取締役 森山勇（S37・政経）
立川市錦町四―八―三
TEL（〇四二）五二五―一二三〇
FAX（〇四二）五二五―〇四三四

末期がんに寄り添う

福岡の神学校 臨床ケアで10日研修

中村克久

八月末、福岡市のサン・スルピス大神学院で十日間の研修に参加した。三年ほど前から学び始めた臨床パストラルケアの教育研修の必修科目の哲学、神学を学ぶためである。この研修は、患者や家族のほか、その友人、医療従事者などを対象に、スピリチュアルな痛みやニーズに寄り添う専門家の養成を目指している。

スピリチュアルな痛みとは、末期患者の「なぜ、私はこんなに苦しまねばならないのか」という訴えや、遺族の「なぜ私の子供が死んだのか」という悲嘆のほか「何のために生きているのか」など答えの難しい苦しみや問いに対し、医師、看護師、心理士ソーシャルワーカーがチームを組んで支える専門職である。また最愛の人を失った家族の悲嘆に寄り添うことも重要な責務である。

欧米では一定規模の病院には専門職員を置くことが義務づけられているが、日本では宗教や文化の違いから導入されていない。しかし私は、二年前から中野区の病院で、ボランティアとして患者訪問と傾聴に取り組み「心」のケアを多くの人が求めていることを実感している。

一〇月から開講する「たちかわ市民交流大学」に「生と死を考える」講座を企画した。高齢化社会を背景に市民の関心は高く、五〇人の定員もキャンセル待ちだ。二〇世紀以来、世界は市場主義を合言葉に経済発展を遂げてきたが、物質文明と科学技術全能の社会構造は完全に行き詰まり、人間性の喪失など深刻な壁にぶつかっている。この講座で自分の心と他者の心とが通い合う感情が揺り動かされることを期待している。そして「生きる意味」は、他者によって「生かされている」という意味と気づいてもらえたら幸いである。（S36政経）

アウシュヴィッツの惨禍

ナチス・ドイツが占領したポーランドに建設した「アウシュヴィッツ・ビルケナウードイツ・ナチの強制・絶滅収容所」は入場無料、写真撮影自由だ。世界中から来てほしい、ここで何が行われたか、帰国したら人々に見せてほしいというポーランドの願いだ。1979年、人類の負の遺産としてユネスコ世界遺産に登録された。

連行の汽車が到着すると、働ける者２割が収容所へ。子供や労働力にならない８割は別の汽車でガス室へ直行した。

この線路の行き先はガス室だ。実際は青酸系の殺虫剤を天井の穴からまいた。（伊藤暢子・S50文研修）

第34回定時総会

一、日時　平成一九年一〇月一四日（日）
二、会場　立川グランドホテル
三、会費　懇親会費八千円、年会費三千円
四、会次第
総会　四時（受付三時半）
平成一八年度事業活動報告
平成一八年度会計報告
平成一八年度監査報告
平成一九年度事業計画
役員改選
代議員会報告
商議員会報告
広報委員会報告
◇
特別講演　五時
鈴木茂夫氏（会員・S29一露文）
『校歌に早稲田の心を思う』
懇親会　六時

皆んなで祝おう目一杯楽しもう

二一日は記念式典

10月21日（日）は早稲田の杜へ

～早稲田大学創立125周年記念～

10月21日(日)は、ぜひ母校で
創立125周年をお祝いしましょう！

創立125周年記念式典

会場の収容人数の都合上、招待制とさせていただいておりますが、以下の会場にて同時中継を行います。ぜひ、ご来場ください。

9時２０分～　開式前プログラム
※荒川静香さんなど、各界で活躍中の校友からのビデオレター放映など
※「早稲田の栄光」歌碑紹介

１０時～　記念式典

同時中継会場
大隈講堂前広場・小野記念講堂
8号館106・B101・B102

式典終了後（11：45頃）総長を先頭に、世界各国の学長が南門通り入口～大隈講堂前までパレードします。大隈講堂前では、世界に向けて、早稲田大学第二世紀宣言を行います。

編集チームから

▼話半分で聴いてください。編集者の間では、集稿できた段階で編集は終えたも同然だと囁かれています。その点、立川稲門会では会報も通信も、会員諸氏はいつも締め切り日を順守してくれます。したがって今年も作っている段階で、無事編集を終えたに等しいようです。皆様の協力体制と団結力に感謝いたします。（中村　信）

▼大隈老侯の「人間百二十五歳説」にちなむ、早稲田大学創立一二五周年記念行事が一〇月二〇、二一の両日、母校を中心に華やかに行われます。後にも先にもこれっきりの、千載一遇のチャンスです。OB、現役あげて心から祝いましょう。そして、母校へのかかわりを見直す機会にしませんか。

祝意と協賛の意をこめて、立川稲門会も初の一二ページ誌面に挑戦しました。そして例年通り、会員諸兄姉が快く書いてくださったお陰で、スムーズに編集できました。（錦織　文良）

広報委員会　錦織文良（委員長）中村信（副委員長）・志村順子・小林章子・米田典弘・長野長正・原健一・古川剛久・鴛海量良
制作・アート　中村大（アイ・エー・ピー多摩）